酒々井町の遺跡

酒々井町の先土器時代の遺跡は、成田市、佐倉市、印西町のような大規模な開発が少なく、発掘調査もあまり行われていないので、発見例は少ないが、昭和五十八年に行なわれた国道二九六号線バイパス敷地の本佐倉大堀の発掘調査で、三か所からナイフ形石器や石核が発見されている。成田空港二期工事による代替畑地造成のため調査された伊篠白幡からも、石核や剥片など七二点がまとまって発見されているが、くわしい報告はなされていない。また昭和六十年に調査された本佐倉北大堀の国道二九六号線バイパス用地からナイフ形石器が発見された。報告書によると、暗褐色の硬質ローム層（Ⅴ層）中の三・七メートル×二・七メートルの範囲からナイフ形石器一点、使用痕のある剥片三点、その他の剥変一一点が集中して発見された。ナイフ形石器は瑪瑙でつくられ、横剥ぎの剥片を素材として、片側縁部だけ刃潰しを施した長さ四・三センチメートル、重さ七グラムのものである。石器が集中して発見された北側には、楕円形の浅い皿上の落ち込みが確認されている。